'79 FASHION OF KOBE

座談会／K・F・M・（コウベ・ファッション・モデリスト）10月1日誕生

自由な発想で意欲的に

□出席者□

福冨　芳美〈神戸ドレスメーカー学院院長〉
砂川　松枝〈オートクチュール・カセット〉
山田　冨紗子〈ブティック&オートクチュール・ウインザー〉
小川　梢〈小川洋裁学院院長〉
藤本　ハルミ〈マーガレット洋裁店〉
市野木江充子〈市野木ニッティングスタジオ〉

砂川　松枝さん

小川　梢さん

福冨　芳美さん

この秋、神戸にもうひとつのファッション・グループK・F・M・（コウベ・ファッション・モデリスト）が発足した。神戸のデザイナー、それぞれが立派にその仕事を続け、ファッション都市を目指す神戸にとって、今やなくてはならない存在のデザイナーたちで構成されている。このグループの活躍に期待したいと同時に、ファッション都市づくりに重要な役割を果たすことを確信する。そんなグループの誕生にあたり、このK・F・M・がどのような気構えでスタートするかを語っていただいた。

★さらに押しすすめたい、神戸をファッション都市に

福冨　ファッション都市神戸が叫ばれてから七年経ったけど、これもそもそもは神戸市の発案でしょ。つまり、専門家ではない人たちがその源だったわけで、よくわかっていないままスタートしたみたいなものですね。私も初めのうちは何をいってるのかしらって気がしてたけれど、でもそうは思いながらもいろいろお手伝いをしてきて、途中、妙なことをいいだすなってことや、ホラみた

いなことをいってるなと思うようなこともあったけど、その反面、いいこともあり、とにかく神戸はファッション都市なんだというイメージができてきたことは非常にいいことでしたね。たとえば、町でいえば、北野町が何となく雰囲気がでてきたこと。ただそれをどうのばしていくかが我々の問題でしょうね。

小川　私も長い間北野町をみてるけど、確かに今の北野町、昔では全く想像もつかなかったことですね。そんなところにも神戸の姿の流れというものがまざまざとみられますね。それだけ時代も流れてきたということが痛切に感じられます。

砂川　北野町を訪れる観光客の人たちを見てて感じるのだけど、あの人たちの服装がちっとも楽しくない。神戸を訪れた人たちは神戸でそのへんを見て帰って欲しいですね。神戸としてもそれに充分対応できるものを持たなければなりませんし、そういうところに我々の仕事の意

市野木江充子さん

藤本ハルミさん

山田冨紗子さん

義があるのではないかと思いますね。

福冨　ひとつ必要なのは経済的なファッション都市づくりですね。これからは経済力がプラスしていかなければならないと思います。いつまでもかけ声だけのお祭りさわぎだけでは市民はソッポを向いてしまうでしょうね。誰もが多少なりとも潤っていく方向にもっていきたいなと思いますね。ファッション都市という発想から、K.F.A.、K.F.C、K.F.S.などといろんなファッション・グループができてるけど、それはとてもいいことですね。いろんな人たちのグループができて、それぞれがのびていくのがいいと思います。

藤本　そんな意味からこのK.F.M.も頑張らないといけませんね。

山田　だけどいつも思うのですが、そういうグループのコウベ・ファッション・フェアにしても、個性がなくて、コピーにすぎないもので、おもしろくない感じ、もうひと工夫欲しいですね。

藤本　それはね、ヨーロッパでは〝デザイナーありき〟が原点となっているのに、日本では〝企業ありき〟で、デザイナーを雇うという発想ですね。そういう体質的なもののちがいでしょうね。もちろんデザイナー自身の自覚ということもあるでしょうけど。

山田　ヨーロッパでは、次のシーズンにはこんなプリントでいこうとか、こんな色彩でいこうとか、どんなものをうちだそうかという大きなテーマが約束ごとのようにして暗黙のうちに守られているようですね。ところが、日本の企業は、他より先に！っていう気でいるから、全体的にある意味でのまとまりがないみたい。

藤本　たとえば次はどんな風にいこうかというテーマはスタッフたちの交流があって決まっていくらしいけど、ところがデザイナーそれぞれに個性があるから、それがどう処理されてでてくるかが、それぞれのデザイナーの個性のあらわれなんですね。

ファッション市民大学に参加していろんな先生の話を

聞いたり、いろんな人たちと話をしたりしていると、今までのように店の中でいろいろ考えているだけではいけないなというショックを受けましたね。視野が広がったという感じ。今、服を作る者はどうあるべきかとか、自分がその中でどんな分野が適しているかとか、自分を批判的に見れるのが良かったですね。そんな意味からも、いろんなファッション・グループができて、全体がいきいきと動いて、活動していることが理想的なファッション都市像でしょうね。

市野木　私個人としては、環境的に恵まれましたね。というのは、ファッション都市を目指すという神戸の環境ですね。他との交流がなくて一人でやってると視野が狭いけれど、今まで知らなかった人とお付き合いするチャンスに恵まれたりして見る目も大きくなりますね。そういう意味で、ファッション都市を目指す神戸ということが、他都市に比べてはるかに環境的に良かったですね。またそういうふうに感じている人はたくさんいると思うんです。今はそういう人たちの力、底力みたいなのができていく過程ではないかなと思います。

砂川　だけどファッション都市としてはまだまだ一般的ではないですね。まだ一部の範囲のものでしかすぎないと思いますね。その徹底が必要じゃないでしょうか。私たちは常々ファッションに直接関係する仕事をしているけれど、お互いの勉強をもっと連帯してやっていき、さらにこれからの人たちがどうあるべきか、どうあって欲しいかということも考えながら、そしてそれに対しては私たちはこういう仕事をしているんだということを示していかないといけないですね。

★自由な発想で集まるK.F.M.のメンバー

藤本　今まで個人的にファッション・ショーを開いてきて毎年そんな機会があればいいなと思うのですが、何かと困難で、一人ではできなくても、二人三人となればやり易くなることもあると思うんです。神戸がファッション都市として進んでいくためには、いろんなファッション・グループができてこないといけないと思います。Aのグループ、Bのグループ、Cのグループというようになり、そしてそれぞれの個性を出していけばいい。グループができると、必然的に発表の場が作られるし、それがほんとに充実した内容のあるファッション・ショーにならないと。そんなグループがいろんなところでファッション・ショーを繰り広げればどんなに楽しいことでしょうね。そして神戸にはいっぱいおもしろいファッション・ショーがあるから行こうというふうに、日本じゅうの人たちが注目するようになる、そんな街のあり方がファッション都市としてふさわしいと思うんです。

小川　このK.F.M.では、今までのグループのあり方とは全くちがって、個々にフリーな気持ちで、そしてそれがひとつにまとめられるような、ユニークで、ホンモノの神戸の一グループであるというようなことになって欲しいですね。

山田　そのとおりですね。

小川　内側の人間関係で疲れるようなグループではダメですね。

山田　人柄が服を作ると思うんですね。そのあたりが神戸らしい服だと思うんです。そんな意味からもグレードの高いものを作っていきたいですね。

砂川　買う方も宣伝に乗せられる傾向がありますね。ということは自分がないということですよね。選ぶ力がない、これがいいんだといわれるとそう思ってしまうんですね。

藤本　神戸の人は割合しっかりしてますよ（笑）。

砂川　そうですね。一応見ているけれど、手をつけようとはしませんね。

福富　〝着たい〟ということだけで着てはダメで〝着たい〟そして〝私、着られる〟ということでないとダメなんです。

藤本　ほんとに魅力があって、ほんとにいいものだと、

寿命があると思うけどね。

市野木　K.F.M.というグループができた以上、具体的な活動が大事だと思うんです。ちがった考え方の人たちが集まって発表会をしようという場合、それぞれの考え方は変えようがないけれど、グループでの発表会である限りある程度はひとつのポリシーをまとめて、意志統一っていうか、そういうことがないとグループとしても外に対するアピールが弱くなってしまうでしょうね。

藤本　もちろん単にいろんな人が集まっただけのファッション・ショーではダメです。一貫した訴えがなければね。

砂川　いわゆる商売につながるファッションを基本にして、さらによく練って、今までやってきたことをくりかえすだけではダメですね。

K.F.M.発足。左から岡田美代、砂川松枝、小泉美喜子、藤本ハルミ、小川梢、金子正男、福富芳美、山田富紗子、大西節子、川瀬弘子、市野木江充子、丸山千恵子、と大里最世子＜枠内＞のメンバーたち。

小川　今までのグループのように世の中に出たいっていう感じの人たちの集まりになってしまうのもよくないし単にファッション・ショーを開催するグループという単純な会でもおもしろくないですね。

砂川　私、たとえば市野木さんにも期待してるの。私たちはふだんはでき上がった生地を扱ってますでしょ。ところが、市野木さんは編むことから始まってるわけね。そのあたり、素材を自由自在にこなしていくってこと、勉強させてもらうわ。

藤本　そうね、布とニットの出会いみたいなものね。

市野木　でも私たちは逆にね、糸とか、素材からやってきたので、まずそういう素材から出発するものと決めてかかっているので、今までの考え方を捨てることから始めてみれるんじゃないかなと期待してるんですよ。

藤本　K.F.M.のメンバーの中には我々と同じサイドの仕事ではないプランニング・スタッフがいたり、別のジャンルの仕事をしているブレーンがたくさんいたりするので、いろんな時にいろんな人たちに参加してもらうことができるんです。ファッション関係の人たちだけが集まるのじゃなくて、全くちがう分野の人たちを含めて、大きく考えて、大いにその人たちの意見や知恵を借りたりしていけることがいいですね。

山田　楽しみながら勉強できそう。

藤本　ファッション・ショーを開く場合は、もちろんそれをどういう風にやっていくかということを考えるけれど、ふだんは単にファッションの話だけでなく、別の意味での刺激を受けあうって感じのグループでないといけない。

福富　かたくいえば、学ぶところのある会でなくてはいけないってこと。

藤本　自由な発想というか、リラックスして考えてひとつのものをうちだしていく、神戸はそんなことができる街だし、K.F.M.ってそんな意味での仲間ですね。

●元町パルパローレ座談会

80年代の元町を創るファッショナブル界わい。パルパローレ

ネオ・モトマチ族のために
palparole

ゆっくり見てゆっくり買える空間的ショッピング・パルパローレ

――11月1日あのエレガンシィな元町三丁目に、初めてのファッションビル〝パルパローレ〟（オーナー丸桝合名会社／ディベロッパー三菱倉庫KK）が誕生する。〝ネオ・モトモチ族のため〟にって何かしら？　80年代の元町らしさを新しく詩う〝パルパローレ〟の魅力を、オープンにさきがけて〝凪月堂〟の二階で座談会。

近藤　元町は、神戸の歴史と共に歩んだ商店街で、センスのよさと選択眼の厳しい神戸の人々にアピールする新しいファッションビルを、と私共のマスヤの土地に三菱倉庫さんのお力添を頂いて、一年をかけて誕生へこぎつけました。

辻巻　全国的に見て量を売る時代から質の時代になりました。消費者はいっぱい衣服を持ってる。どっかの銀行が調べたら一人当り80着だとか（笑）これからは個性化時代ですね。神戸はファッション都市といわれながら〝これぞ神戸〟というところが少なってきていますでしょう。三宮、北野とそれぞれの味わいがありますが、元町はより元町らしくと、そこで建物とテナントさんに神戸らしさを表現し集めたファッションビルをと考えたのが〝パルパローレ〟

です。斜陽元町といわれた人通りも今、また復活してる。ゆっくり見てゆっくり買う空間的な元町ショッピングが質の時代にフィットしてきた。

建物は青空の見える吹抜けがあり広場を持つ新しい異人館イメージで贅沢ですよ。おかげ様でテナントさんはポリシーのはっきりした一時の流行に捕われないトラッドなタッチの専門店やメーカーさんが集りました。

神戸には三代住んだらおしゃれになる

黒田　カネボウもディオールブティックを出店しますが、ふる里へもどって来た感じ（笑）元町の今の流れにぴったり。神戸は基本的なファッションの判る本格派ですね。

岩井　トアロードで五年ですが、三宮のカラーには合わないけれど、パルパローレは雑居ビルでない新しいファッションビルだし、ポリシーにも合うので出店しました。

丸山　これからの時代は、自分の暮しを基準とした個人的な買物になると思うし、買ったものを生かすのは暮しの中だし、暮しの空間をイメージしながら〝パルパローレ〟で買えるというのは楽しみ！

辻巻　神戸は都会育ちの生活派ですから、ファッションの好みが、衣・食・住とトータルで、モダンな生活様式がありますね。

岩井　神戸は親娘連れの買物が多く、お母さんが判ってる（笑）東京に三代住んだら白痴になる（笑）そうですが、神戸に三代住んだら自然におしゃれになりますよ（笑）

近藤　家族ぐるみで買いにきて頂けるというような雰囲気にパルパローレはして行きたいですね。それにファッションを見せる楽しみを、この吹き抜けの空間とゆとりのスペースで表現して頂けますよ営業時間は夜七時半迄で、レストランもありますので九時迄照明をつけますから、夜のお買物も楽しんで頂けます。

丸山　神戸は大人の街のイメージがあるので、一度帰ってそれからおしゃれをして出て行きたいわ。今の元町もセンター街も閉店が早すぎますものね。

近藤　今や〝風見鶏〟のTV以来神戸ブームで観光客も増えていますので、北野町界隈や異人館を見た後パルパローレでお買物をと。

女性に愛されるパルパローレに……

丸山　一番大切なことは、その地域で暮している人がいかに満足できるかということがその街のよさになると思うんです。だから住む人がいかに気持よく楽しんで暮せるかという原点に戻って、店づくり、街づくりをして行ってほしい。

黒田　マスヤさんの伝統的な元町の商店の品格とお人柄が、三菱さんのご協力でより本格化の一歩進んだ元町イメージをパルパローレが創り出して行くだろうと思いますね。

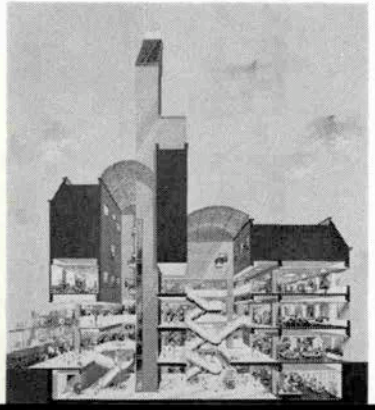
岩井　パルパローレでのお買物が女の子達の自慢や話題になればいいですね。

辻巻　女性のお客様に愛されるパルパローレでありたいですね。

近藤　お買物は女性ですから（笑）

辻巻　自分の好みと主義主張をはっきり持ったお店であり、そんなお客様に来ていただいてネオ・モトマチ族として元町旋風を起したいですね。

△元町・凧月堂にて▽



●パルパローレ
神戸市生田区元町通3丁目18

在神ファッションメーカー35社のグループ

ファッション都市神戸の屋台骨

K・F・A・

〈協同組合神戸ファッションアソシエーション〉

K・F・A・（協同組合神戸ファッションアソシエーション）が、任意団体として、神戸洋秀会と神戸ブラウスグループ（KBG）の二団体を中心に、神戸のファッションメーカーを結集して結成されたのは、昭和四十七年十一月で、五十三年十二月、協同組合として新たに発足した。組合員は、現在、三十五社である。

結成当初、川上勉理事長（オールスタイル社長）は、次の八つの行動目標を立てた。

①グローバル・ファッション・フェアを神戸で開催する。
②世界デザインコンテストを神戸で開催する。
③神戸ファッション大学を設置する。
④ファッション誌「ファッション神戸」を発刊する。
⑤KFAラベルをつけて、神戸のファッション商品のデザインと品質を保証する。
⑥ファッション資料館、ファッション会館を建設する。
⑦ファッション街区を建設する。
⑧国内や海外のファッション都市や団体と交流する。

発表当初、半信半疑で受けとられたこれらの八つの目標は、しかし、七年後の今日、徐々にではあるが実現の道をたどっている。

その後、グローバル・ファッション・フェアは、毎年秋のファッション・マンスリーの皮切りとしての「コウベ・ファッション・ショー」として、世界デザイン・コンテストは、とりあえず、神戸市在住者を対象とした「コウベ・ファッション・デザイン・コンテスト」として、また神戸ファッション大学も、「ファッション市民大学」として、それぞれ実現に一歩ずつ近づいている。

川上　勉　　木村　豊　　松岡　賢蔵　　細川　数夫

たとえば、ファッション・ショーにしても、当初から関わって来た細川数夫ジャヴァ社長は、「少々マンネリ化して来たので、今後、どう変化をつけて行くかを考えないといけない。また、今のような舞台でやるのじゃなく、フロアショーという形へもって行きたい」と、まだまだ不十分であることを指摘する。

現在、K・F・A・の主な活動は、コウベ・ファッション・ショー、神戸ファッション市民大学への参

（上左）KOBE産業展（53.9）（上右）'79春夏物合同展示会（53.1）（下左）神戸・リガ友好展（52.2於リガ市）（下右）コウベ・ファッション・ショー'78より

加のほか、神戸まつりへの協賛（商品提供）、K.F.A.のメンバーによる合同展示会などである。

ところで、K.F.A.のメンバーにとって、今、最も関心があるのは、昭和五十六年三月から始まる「ポートピア'81」とポスト・ポートピア'81におけるファッション街区の建設である。

「先に提唱した八つの行動目標の方向に神戸は今後とも進むべきだが、その歩みを強めるインパクトとしてポートピア'81を位置づけたい」（川上社長）「地域に対して役立つような博覧会になって欲しいが、同時にその場を利用して神戸にファッション産業ありということをピー・アールして印象づけたい。五年後、十年後には、ファッション街区として十分に見られるし、親しんでもらえる町づくりをしたい」（木村豊キムラタン社長）「ポートピア'81はぜひとも成功させないといけない。これを目指して我々若い者が頑張らないといけない。そのためには、まず、足元をしっかり固めて、本腰を入れて取りかからないといけない」（細川社長）「ポートピア'81がファッション業界にとって試金石となると思う。ポートアイランドに、神戸が日本のファッションの、さらに、世界のファッションのメッカとなる基地づくりをする必要がある」（松岡賢蔵パール社長）と、ポートアイランドにかけるそれぞれの意気込みは大きい。

「我々の代だけではなく、孫の孫の、また、その孫の代までかかっても神戸をりっぱなファッション都市につくりあげないといけない」（川上社長）という長期展望の下で、「我々がファッション都市神戸の灯をともしつづけて行かないといけない」（細川社長）との強固な意思が、K.F.A.のメンバーのなかには漲っている。

今後の活躍が大いに期待される。

'79 FASHION OF KOBE

最前線に立つ街の顔、専門店グループ

神戸らしさを街の中に演出

K・F・K・

〈神戸婦人子供服小売商組合〉

組合員の資格は「神戸市内にて婦人既製服、服地仕立婦人洋品、雑貨、子供服、洋品雑貨の小売業を営むもので神戸市内に事業場を有すること」と規定された、このK・F・K・(神戸婦人子供服小売商組合)は結成、発足して六年目を迎えた。

真珠・ケミカル・洋菓子……等と並んでファッションも神戸ならでは、と評価されているもののひとつだが、小売店はそのファッション最前線に立ってお客さんと直に接している。地域との密着性も高いが、一店舗ずつの力では〝神戸のファッションをいかにのばしていくか〟というような大きな問題を対処することは難しい。そこで、これら小売店を組織化し、町全体の向上をはかるような環境づくりと共に相互の経済的促進も考えていこうということを目的に結成されたのがこの会である。

現在、会員は五十五社で、毎月理事会を設け、年一回春には総会を開いている。年間を通じては新年の名刺交換会と夏の六甲山での親睦会が定期的な行事となっている。

主な活動は、五月の神戸まつりで花自動車によってK・F・K・の宣伝をし、秋のファッションフェアには自主的なプログラムを組んでいる。

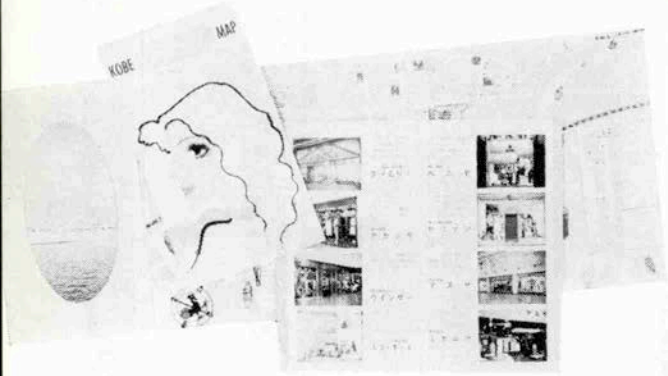
坂野通夫理事長

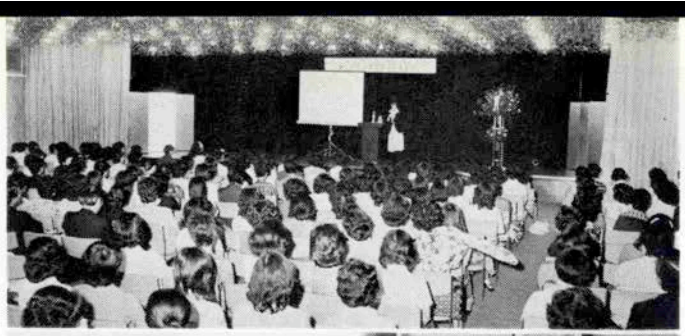
ファッションフェア中のK・F・K・FASHION SALONは今年で二回目を迎えた。昨年の第一回目では、ファッション評論家の大内順子さんと浜野商品研究所の浜野安宏氏を講師に招いた。今年9月26日に開かれた第二回目は、音楽とファッションをコーディネイトして、湯井一葉さんのシャンソンとモレシャン・スタイリストアカデミー校長のフランソワーズ・モレシャンさんのお話というプログラムで好評を博した。

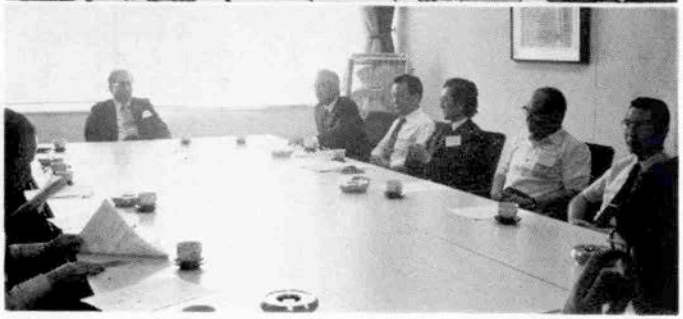
昭和五十二年には、K・F・K・メンバーの店の紹介と神戸の飲食店を紹介し、街の地図も折り込まれた手軽なハンディタイプのファッションマップを作成、配布した。サンボーホールを会場に、有志の加盟店による合同バーゲンも企画されたことがある。

講師を招いて各種セミナーを開いて勉強したり、付属資材類の協同購入なども進められている。

理事長は㈱ファミリアの坂野通夫氏が、副理事長に㈱アカシアの石井省三氏、㈱ウィンザーの山田六郎氏、日本モード㈱の藤田明氏、㈱ベニヤの松谷富士男氏、㈱プティック・セリザワの芹沢豊男氏、マスヤ㈱の近藤常吉氏の面々が携わっている。







<右上>昨年秋に開催された第1回 K.F.K. FASHION SALON（於・オリエンタルホテル）でパリ情報を講演中の大内順子さん。
<右下>毎月1回開かれる理事会風景（於・㈱ファミリア本社で）ポートピア'81を控えて、K.F.K. がどう活動していくか検討中です。
<左上>灘本唯人氏 イラストの 神戸の女性を表紙にした KOBE FASHION MAP は、カラー刷りで、ハンドバックに収まる便利な大きさで好評です。

これからの理事会ではポートピア'81を控えてK.F.K.がどのような方法で参画するかという議案に焦点が絞られる。神戸市の経済局でも全力投球の姿勢がみられるこのポートピア'81にK.F.K.でも予算を組み、具体的な参加法は検討中だが、例えば、各メンバーの取り扱っている商品を会場に設営して、店舗のPRをはかるような方法も考えられる。またポートピア'81会期中における小売店の営業時間の延長問題も考慮中ということで、この機会に他都市からの買い物客の導入をはかりたいという心構えだ。期間中のみでなく土曜、日曜の買い物客に対する駐車場の問題についても具体策が提案されている。

坂野理事長は、

「この会では、神戸は住みやすい、良い立地条件にもかかわらず経済地盤が低いので神戸の町全体が活発になることを考えています。それには各小売店の意識や自覚はもちろんですが、町並とか看板の整理とか、町を演出していくことも大変必要な問題です。〝神戸に人を呼ぶ〟という単純な発想が大切なんじゃないでしょうか。モノを売るにしても、商品と売る人間との間に格差があってはよくないのです。商品に満足していただき、また買いに来たくなるような売り方というのは難しいものです。しかし、そこに専門店の本来の良さがあり、神戸がショッピングタウンとして全国的にも高い評価をうける点だと思います。ウィンドウショッピングだけでも神戸の町は魅力がある、といわれるほどに、町の顔である我々商店が頑張らないといけませんね」と語る。

他都市から神戸へ出店したり、新しく神戸で小売店の営業を始める場合には、神戸らしさを早く、正しく理解してもらうよう、意見を述べ、情報交換等の利点もあるので積極的に入会も勧めている。

ファッション業界全体の発展と各小売店で販売に携わる従業員の福利厚生を含めて、幅広く努力する前向きの姿勢だ。

ファッション市民大学の卒業生

和気藹藹のファッションの集い

K.F.S.

〈コウベ・ファッション・ソサエティー〉

まずは今年になってからのK.F.S.の活動――つまりマンスリーサロンの講師の紹介から。

二月　小関三平神戸女学院教授（社会学）
三月　J・メルオー灘カトリック教会神父（食物考）
四月　立亀長三さん△アトリエ・ナクト▽の公開講座
五月　福田義文生田神社宮司（三宮の歴史）
六月　夏目俊二「劇団神戸」主宰（〝から騒ぎ〟の観劇）
七月　総会
八月　細川董さん△哲学者▽（エロス談義）
十月　大屋政子さん△帝人社長夫人▽の公開講座

あまりFの字（ファッション）とは関係のなさそうな人の名前が並ぶ。しかしかなり魅力的な〝講師陣〟である。

K.F.S.は五年前から毎年秋に市経済局の主催で開かれている神戸ファッション市民大学の卒業生の団体である。つまりファッション市民大学の同窓会。第一回目が終わった時、せっかくファッションを学ぼうとしている人が集まったのにこのまま散り散りになってしまうのは惜しいと、主催者である市経済局の呼びかけで発足した。以来今年の総会が第六回というのだから、綿々と続いている。第二期以後の卒業生にも参加を呼びかけて現在会員五十八名。営利目的でない個人参加のグループである。そのことや発足のきっかけを思うと、毎月マンスリーサロンが開かれること六年というのは大したもの。

会長は中原武志さん。今年で六期目、もはやK.F.S.の〝顔〟。このK.F.S.という名前は現在副会長の柿本雅司さん△伸和スタイル▽がつけた。その他会員にはプティックのオーナー、ファッションメーカー勤務の人、紳士服、婦人服のデザイナー等ファッション（服飾）に関係のある仕事の人が多い。ファッション市民大学卒業生のグループだから、これは当然といえば当然かもしれない。しかし、マンスリーサロンの講師たちの顔ぶれにしても平素の会員たちの話題にしても、所謂服飾という意味のファッションはあまり意識されていないかのよう。K.F.S.のFは〝生活そのもの〟のファッションのFと見られた。

さて、主なる活動は月例会のマンスリーサロン、春秋二回の一般公開講座、そして年末の大クリスマスパーティ（これは一般の方も参加できる）。このパーティ年毎に趣向を凝らしてファッションショーあり、サンバあり、ゲームありと大変なパーティで百人近い人が集まる。

このパーティにしても公開講座にしても、どういうわけかいつも赤字だが、それでも大々的に行なう。このあたり〝個人参加〟の強味で「何かわからへんけど面白い

＜上右＞は今年の総会。今年度の理事たちがビールで乾杯　＜上左＞身障者ファッションの展示会場で。米田さん（前）と中原さん　＜中右＞上・中原武志会長、下・柿本雅司さん　＜下中＞マンスリーサロンはこのように熱心に皆な聴いている　＜下左＞ファッション公開講座講師立亀長三さんの熱舌振り

からや」というところだろうか。

その〝面白いK.F.S.〟にこの春から一歩進んだ動きが加わった。身障者福祉センターに勤めている米田博司さんを中心にした「身障者ファッション事業」がそれだ。例えば紳士服なり婦人服での会員たちの得技やファッションセンスを生かしてアドヴァイス、体の不自由な人たちの服をいかに美しくかつ機能的に作れるかの試作。展示会も開いた。中心となって動いた米田博司さんは今年度のブルーメール賞ファッション部門で賞を受けた。

面白おかしくという活動、「受講」というだけの参加の仕方だったK.F.S.には、大きな前進といえる。秋の展示会の予定もある。

「ただねえ」と名付け親の柿本さんは、マンスリーサロンなどへの会員の出席率のあまり良くないことを「ファッションのFを今忘れすぎてるのとちゃうかと思うねん。もっとファッションぽい講師でマンスリーサロン開いた方がええのちゃうかな。そしたら出席率もよくなるんちゃうかなあ」という。例会に欠かさず出席している柿本さんだ。

ファッションとは、一時期まで単に「服飾」だった。しかし「ファッションとは生活のゆとり」という定義が通用するようになった今、K.F.S.のマンスリーサロンはその「ゆとり」そのもののような気もしたのである。出席率のいい会員たちは、毎日顔を合わせるのだから、とても親しくなっている。ファッションだけでない交歓の場ともいえる和気藹々のグループだ。

秋のチャリティー・ファッション一般公開講座

大屋政子「人生を語る」

とき／十月八日（月）六時三十分より
場所／農業会館十一階大ホール
チケット／一〇〇〇円（当日券有）
チケットの売り上げは、身障者ファッション事業に寄付いたします。
お問い合わせ／K.F.S.事務局　☎三三一―二二四六　月刊「神戸っ子」内

'79 FASHION OF KOBE

明日の神戸ファッションをクリエイト

'80年代の〝ファッションの港〟に

K・F・C・〈KOBE FASHION CRIATORS〉

神戸に生きる人々の美しい豊かなくらしをはぐくむために生まれた、神戸市のクリエイターたちのグループ、K・F・C・（コウベ・ファッション・クリエイターズ）。自由な新しい感覚で、神戸ファッションをリードし、クリエイトすることが会員14人の大きな願い。

実際的な活動は年に一度、そのときに応じたタイムリーな時代エッセンスを吸収したテーマを決め〝KOBE COLLECTION〟と題したK・F・C・独自のファッションショーで各会員、数点の作品を発表。創作においては地元ファッション業界とのコネクションを積極的に持ち、トータルな神戸ファッションを志向。

例えば、今年3月に相楽園会館で開かれた〝KOBE COLLECTION '79 SPRING&SUMMER FASHION SHOW〟では全国の真珠の80%を収散している神戸の真珠業界とジョイントし、ファッションの中に真珠を見事融合してしまい、今までにない実験的な新しいショーとして好評を博したのは記憶に新しい。また播州織物振興対策協議会の協力により、西脇の綿織物を素材に新しいデザイン感覚を取り入れた西脇アワーを持ち、リクエイターズだからこそ成し得るファッション表現だった。ショー以外に、毎月一回例会を持ち、会員相互の親睦情報交換、今後の方向性などを、ある時は和やかに、ある時は熱っぽくディスカッション。結成（昭和48年）以来欠かしたことはなく〝個性〟の集団というイメージからの華やかさの内に隠む地味で基本的な活動もおごそかにはされていない。製作に関する専門分野のエキスパートを招いて技術講習会も数回催している。この場合は広く一般へも呼びかけており、これもK・F・C・ならではの試みといえる。具体的な活動の足跡として'77年にサンボーホールで開かれた西脇織物素材展へ素材を使用した作品を出品。'76年兵庫県フラワーセンターで開かれた「世界の花と緑の祭典」に協賛の「'76先染めサマーファッションショー」の開催などが主なもの。

K・F・C・の黒一点、会長の中西省伍さんは「神戸は他の産業に比べて繊維産業の地盤がまだまだ薄いよう。アパレルメーカーは多いわりに素材メーカーがないため我々クリエイターたちがイベントやデモンストレーションをする上に不自由さを感じます。神戸にもジョイントできる素材産業が欲しいですね。神戸のお客さんはいい意味で自分の美意識を持ってい

中西省伍会長

上　3月に開かれた「'79 6th K.F.C. FASHION SHOW」
右　'76 先染め サマーファッションショー（兵庫県フラワーセンターにて）
下　'77年に サンボーホールでの 西脇素材展に作品を出品

K. F. C. 会員（50音順）

砂川　松枝、大西　節子、岡原加代子、川崎千恵子
米谷　玲子、杉山津多恵、専崎恵美子、武田　昭子
中島　嘉子、中西　省伍、正本　幸子、真殿恵津子
武呂　年子、吉田　蓑絵

ますがガンコ。もっと柔軟性を持ってファッションに取りくんでもらえる雰囲気を我々が積極的に作っていきたい」とK.F.C.の一般に対するアピール不足を今後の課題として指摘する。

また、結成時からの会員である中島嘉子さんは、「研讃という意味でショーは励みになりますし、地元での発表だから観る人たちにも親近感を感じてもらえるでしょう。ただし会員一人ひとりがクリエイターとしての姿勢と勉強の大切さを自覚して作品をクリエイトしなければだめです。K.F.C.が周囲から無視できない、招かれる存在になるためには、やはり本物の実力を各自が備えることが必要ですね」とクリエイター本来の使命を。

岡原加代子さんも結成当時から会を盛り上げてきた一人。「K.F.C.はクリエイターの集まりだから個人の考え方もカテゴリーも違う。やれることは14人の共通したこと。単なるオーダー屋の集まりでなく、神戸のファッションに影響を与え、ファッション産業の中でリーダーとなる集団でなければならない。そのためにも〝KOBE COLLECTION〟はハイファッションを要求されます。それとファッションは環境が左右します。例えばイブニングドレスを発表しても実際にそれを着こなす場がないのが現状。衣生活を豊かにするにはまず環境から。これは行政サイドの協力をお願いしたいです」と語る。

'80年代に向って、K.F.C.はこれまでの地盤をもとに飛躍しようとしている。今までの一般を対象にしていたショーを、将来は業界を対象にしたショーに切り変えようという案、そして東京ストップ、大阪イースタンストップのようなものを神戸で開き、全国から神戸ファッションを買い付けに来るようにしたいという。

兵庫県という広い範囲で一般へのつながりを考えながらポートピア'81へ焦点を合わせて、新しいクリエイト活動を始めたK.F.C。明日の神戸ファッションのためにK.F.C.は〝ファッションの港〟として一歩ずつ着実に歩みを続けている。

'79 FASHION OF KOBE

未来の食生活を先取りする

神戸の料理文化向上へ邁進

K.F.R.

（コウベ・ファッション・リョウリニン協会）

コウベ・ファッション・リョウリニン、略してK.F.R.というユニークなグループが活動を始めて丸二年が経過した。この会は衣・食・住の最も基本である食生活を料理を作る立場から文化の源としてとらえ、これからの食文化について研究し、普及することを目的として真の文化都市はまず料理文化からという理念に基いている。

神戸には、フランス、アメリカ、イタリア、スイス、メキシコ、ドイツ、中国、ギリシャ、チリ……と数えあげればきりがないほど各国の料理が集まり、味覚のレベルが高い。「神戸へ美味しいもん食べに行こう」という声もよく聞かれる。神戸は今や大阪の〝食い倒れ〟に勝って、食文化が不動の地位を示す、K.F.R.協会発足の地に適した土壌をもっている。

メンバーは現在約百四十名。和・洋・中各種飲食店のオーナー兼料理人、食品関係の会社に勤務する人、大学で食物史を講義する教授、カメラマンとかテレビディレクター、フリーのコピーライター、食べることに興味を寄せる主婦など職種は様々である。会員数が次第に増えているのも、この会の例会毎の企画力にある

奥村彪生さん

第一回目の例会は、この会を提言した畑専一郎、グルメとして名高い竹田洋太郎両氏による講演で昭和五十二年九月十八日に発足した。「たいあたりうどん考」（朝日新聞社刊）の著者であり、おいしいうどんを食べさせることに一生を賭ける大阪・本町の小島高明氏をゲストに〝麺類の全て〟と題した手打ちうどんの実演、会食。理事長の奥村氏と理事の山田氏が京都まで筍の朝掘りに出掛け、筍料理を何種類も料理して、試食しながら、「タケノコ博士」として有名な室井綽博士を招いて筍の話を聞いたこともある。

大阪の全托料理「富竹」で蓮の実、葉、茎全てを使った料理を主人北村圭康の手料理で解説してもらうといった会食。また世界の香辛料をテーマに〝香辛料＝恋と夢と冒険と〟と題して、松山道夫氏（香辛料を食べさせる店、ぶはらオーナー）の講演会を開いたこともある。この時の食事はビストロ・ドゥ・リョンの山崎良平氏によるリョンで修業した本場仕込みのフランス料理。

次回の企画はインド人によるインドの家庭料理を披露してもらい、手を使って食べるという方法や、民族衣裳サリーの着つけを教わるなど、インドムードを満喫しようというもの。毎回趣向を凝らしている。

（上左）筍料理会で挨拶する奥村理事長
（下左）ビストロ・ドウ・リヨンの山崎良平氏による講演
（上右）「麺類の全て」で実演する小島高明氏を囲んで
（下右）発足会で講演する竹田洋太郎氏

理事である〝六段〟の山田幸男さんは、「神戸はパンや洋菓子の発祥で食生活のレベルは高く、料理人は真剣に勉強しないと追っつかない状態です。料理人が知識をうまくお客さんへ説明する能力、というのも必要になってきています」と現状を説明する。

K.F.R.協会では食べたり、学んだりに加えて、プロの料理人もメンバーの過半数を占めることから、力を合わせて各種パーティの料理を引き受けることも実践している。市民同友会主催の「我らが仲間3人の栄光と6人の賞をたたえる集い」で約百三十名のパーティ料理をうけたり、神戸市六甲道勤労市民センターの開館五周年の記念パーティでも料理を担当した。

一カ月に一回は例会か研究会をもちたいということだが、飲食店関係に従事する人が多いので休日が合わず、日程調整が難しい。カリキュラムを組んで、K.F.R.協会主催の料理教室も開きたいし、メンバーが腕を振うセレモニーができる場も持ちたいと、理事長をはじめ理事の山田氏、土井料理教室の石原信介氏、レストラン・ルー・サロメの風早由美さん、レストラン・セ・プドールの佐藤添三氏、レストラン、ビストロ・ドウ・リヨンの山崎良平氏ら五名や会員の夢は大きく広がっている。年内にはK.F.R.協会の機関誌も執筆陣を揃えて編集、発行される。

「おいしいものを食べたい、というのは人間の原点の欲求です。生活様式は冷暖房の完備によって、食生活にまで変化をもたらし、素材にも加工食品が食卓にどんどん進出してきています。日本料理、中華料理、と料理人は片寄らず、遊びをとりいれた、食生活のコーディネイトをし、未来の献立てを先取りするくらいの心がけをもちたい」と風俗史学会関西食物史分科会世話人の奥村彪生理事長も意欲的。食生活に貢献した料理人は数多く、よく勉強もしている。もっと社会的地位を認めて、料理人にも文化賞を授与するぐらいの気運がぜひ神戸から生まれてほしいものだ。

KOBE FASHION SPOT

★ヨーロピアンエレガンスへのご招待

黄昏色の街へ……ビルダジュール、ルイザディグレジー、ポーシャルの三ブランドの秋冬ファッションショーが、9月2日リザ本店で優雅に展開された。

本格的おしゃれの秋、女っぽく、大人っぽく

今回はパープルとからし色の意外な組合せとか、秋らしくグレーを主役にした組合わせ、背中の切り替えにギャザーが入りより女らしさを強調したものが目についた。「良い物をお客様のために」というリザの精神が生かされた親切なショウ構成は、回を重ねる度に洗練され、すべて宣伝企画のスタッフの手造りという構成にも磨きがかかって楽しめるものであった。

★ペンディアは新しいジュエリーです

GBの名で有名なスイスの名門、世界的な宝飾メーカー、ゴレイ・ブッシェルのジャパン株式会社(生田区京町69三宮第一生命ビル)が8月28日、神戸外国倶楽部で展示会を開催した。Midasというハイクラスブランドと Vivreというカジュアルブランドがあり、今回はダイヤモンドジュエリーの新作を多く出品。男性用のダイヤ入りベルトバックル(¥439000)やダイヤ入りマネークリップ(¥490000)も。南洋真珠や18金のアクセサリーも相変わらず人気が高い。

中でも指輪をセットできるペンダント、ペンディアは新しいアイディアのユニークなアクセサリー。失くしたり、置き忘れたりしがちな指輪を指からはずしても胸もとにしっかりつけておくことができる。

代表取締役のアンディ・ミューラー氏は、「神戸の女性にもっともっとセンスを磨いてもらいたいですね」とにっこり。

GBコレクションは有名百貨店や一流宝飾店でお求めください。

代表取締役のアンディ・ミューラー氏

★大切な衣服をいつも最高の状態に
フレッシュにオープン、ローブニシジマ

グレイス神戸B1にオープンしたローブニシジマは、クリーニングの枠から飛びだした新しいタイプのお店。大切な衣服をファッションにもクリーニングにも通じたコーディネイターが総合的に診断、衿の調子など詳細な項目のカルテを作成して、高度なクリーニング知識とテクニックで希望に合ったシルエットに仕上げてくれる。クリーニング・メンテナンス・ショップ型くずれの防止、素材感の回復、ファッション、クリーニング最新情報の提供など多彩なサービス内容を備えた、大理石とロココ調の家具が素敵なサロンの感じ。川地民夫さんに似たハンサムな上原敏明店長はじめスタッフの応対もフレッシュだ。

ローブニシジマ☎332－2440

ローブニシジマのスタッフです。よろしく

★一味違った高級志向のインテリアを

"良いものを、いつまでも――"という願いから、インテリア・ファブリック専門店"テキスタイル・アオキ"が8月6日オープンした。インテリアでは世界的にレベルの高い、ヨーロッパでも百年からの歴史を誇るオランダのメーカー、ブルグ社とケンディックス社のカーテン布地・椅子張り地・カベクロス等のコレクションを扱っている。

「国産、アメリカ産などと違って、色がシックで大変綺麗です。無地だけでも55色揃っているぐらいです。それに直射日光に対しても厳しい検査をしたうえなので、色あせることがありません。気品ある色・柄は、わかっていただける人には絶対ご満足していただけます」と自信を持って話す青木敏機代表取締役。直輸入物なので価格は少し高くなるがドレープの美しさといい、質の良さ(綿・麻・ウール等)といい、それだけの価値がありそうだ。新築・増改築に、個性的な空間創りを、という方は一度立ち寄ってみるといいだろう。

テキスタイルアオキ／昔合区磯上通5丁目1－24三光ビル3015☎232－1667

ひと味も、ふた味も違ったインテリアを

★紳士、淑女が集うタキシードの夕べを

「男の本格的オシャレ、ブラックスーツを着込んでパーティーをやろう」と神戸ジュニアテーラーズクラブが、タキシードパーティを企画。ファッションショー、ダンス、食事という優雅な夕べを神戸の紳士・淑女にエンジョイしてもらいたい。女性同伴歓迎です。

とき／10月6日(土) 6PM～9PM
ところ／北野クラブ ☎231－2251
料金／¥10000 ¥8000(女性)
お問合わせ／紳士服・飯島(生田区中町通1丁目14／甲南第1ビル☎371－2277)

★ファッションショーのご案内

'79秋・冬パリブレタコレクション

10月2日(火)午後6時 神戸国際会館
主催／サンテレビジョン・神戸新聞社
S¥4000 A¥3000 B¥2500
出品デザイナー
ランバン、ジバンシィ、セルッティ、パレンシアガ、クリスチャン・オジャールetc。本場パリのモデル10数名による華麗なショウ

深遠な光りを含んだ漆黒のベルベット。
ミステリアスな香りをほのかになげかけて、
まばゆいほどに　女っぽい―。

serizawa

本店　神戸市生田区三宮町3-18

●写真右よりシルクジョーゼットワンピース ¥68,000／一枚仕立てダブルジョーゼットテーラードスーツ ¥82,000／シルクブラウススーツとベッチンジャケットのアンサンブル ¥89,000／ベージュカーフショルダーバッグ（ボルジア／フランス製）¥78,000／紺カーフハンドバッグ（ボルジア／フランス製）¥140,000

オートクチュール・エレガンスブティック
Srinna
センター街店/078(331)3098, (321)6200 11AM～8PM 第2・3水曜休
さんちか店(世界の服地)/078(321)5254 10AM～8PM 第2・3水曜休

翔んで自然と遊びたい自由に。

POÉTIQUE

KOBE まさ

■神戸　さんプラザ店
　　さんちか店
■大阪　千里阪急地下街店
　　阪急ファイブ
　　西武高槻店
　　泉北バンジョ店
■宝塚　阪急ファミリーストア店
■大津　西武大津SC店

GRAY & BEIGE 本物を愛す男のカラーコーディネイト

世界のオシャレをお届けする

ウネ
KOBE UNE

本　店・神戸元町1番街・078−331−3112
別　室・元町1丁目(穴門筋)・078−332−2800
東急百貨店・渋谷店・日本橋店・札幌店・吉祥寺店・東横店

この頁の写真、
カラーでお見せできないのが
とても残念でありますが…。

神戸・大丸前
呉服 みよしや（ミヨシヤ）
電話 078 (331) (321) 代表 三四八八番
代表 三三八八番
サンミヨシヤ 電話 (078) 三三二一五三六一番

上の写真は振り袖、白地朱鹿の子
絞り金刺繍　丸帯箔錦地
下の写真の着物はすべて紅型